

【話題提供】（概要）

「行政と協働した人材育成」

—八王子市計画相談支援初心者研修の紹介—

特定非営利活動法人 若駒ライフサポート 理事長 大須賀 裕子氏

八王子市の自立支援協議会の人材育成について

平成 23 年自立支援協議会を設立

協議会の中で、

- ・ 当事者を中心に、市の差別禁止条例をテーマに検討、その後、差別禁止条例、「障害がある人もない人も共に暮らせる八王子づくり条例」が制定、今は権利擁護部会で人材育成の一つとして虐待防止で施設職員など、職員中心の研修を当事者部会の委員の方を中心に行っている。
- ・ 国のモデル事業の地域生活支援拠点整備、サービスを受けていない方の面的整備をしようと、地域生活支援員という名前で、その方の研修を委託事業所が行っている。計画相談事業所の方たちと人材育成をやっていこうと、初心者研修を実施に至る。

八王子の計画相談の提出状況について

サービス利用等計画案の提出は 100%

障害サービスの受給者のセルフが 2,037 人で 62%、障害児は 876 名中 622 名の 71%という状況。

サービス受給者数 4,000 人以上、6 割以上がセルフ、4 割の方しか計画に至っていない。

*セルフの方の一例で、受給者証所持、地域で 11 年孤立、「何とか計画を立ててもらえないか」と相談があったが、事業が手一杯で、一般相談はするが計画相談はお断りした。受給者証は所持しているが、何も事業所、サービスにつながっていない人がいることが、八王子の実態。

このような中で、初心者研修を実施した。

初心者研修を実施するきっかけ

- ①八王子市内の相談支援事業所が少なく、特定と障害児の計画を立てる事業所が今年 2 月で 22 か所。特に知的と障害児に対応できる事業者はとても少ない。
 - ②東京都初任者研修終了後の実務研修の必要性を感じた。初任者研修を受けた人が、即、計画を立てて、事業所を捜し、地域の資源を捜し、どうできるのかということを含め、実務研修を実施しなければと思った。
 - ③江戸川区の相談支援専門員の計画相談初心者研修を受け、目からうろこだった。
- ・ 江戸川区は区担当者が中心に、区相談支援連絡会が協力、研修内容が充実し、区の資料は障害福祉課見取り図、担当職員一覧、サービス内容の判断基準を公開、区内の事業一

覧も出している。

- ・介護保険のケアマネージャーが多く参加。質、量を増やすため介護保険のケアマネに障害者の相談支援専門員をやってもらいたいとの意図もあったよう。

何かを始めるときに他の取組みを参考にすることがとても大事、江戸川区の研修に行ったことが、八王子で始めた研修につながった。

八王子で初心者研修を行うにあたり検討したこと

①市と協働しての実施。

研修の必要性を感じてくれる職員がいたので、協働で行うことができた。

②市内の計画相談を行っている事業所に呼びかけ、協力者を探した。

22か所中14事業所の協力を得られた。

③江戸川の研修を参考に、自分たち相談員の出来る内容にした。グループワークを中心にを行った。

④初任者研修を修了した人に対しての実務者研修とした。

事例を通して、書き方、考え方を習得してもらい、初めての方を対象に研修目的を明確にした。

準備から実施まで

①市のケースワーカー2名と事業所指定の1名の方と日時、場所と呼びかけ文、周知方法など検討。

②協力していただく相談員の方と市の担当者が検討。

③第1回八王子市主催計画相談支援初心者研修を3月10日に実施。

<具体的内容>

- ・八王子市担当者より障害者福祉課の組織と担当業務、サービス等利用計画案提出の事務手続き等を説明。
- ・計画作成とモニタリングの申請から請求の流れ、新規の方と継続の方の2本立てで説明。総合支援法のポイントの話と、身体、知的、精神、児童の四つのグループに分けて演習を担当。

相談支援専門員の人材育成について

①相談支援専門員の孤立を防ぎ、燃え尽きないように情報交換や話し合える場を作る。

相談支援連絡会を通し、2か月に1回話題提供をもらい、情報共有や情報交換を行う。

②行政の方にも相談支援専門員の育成に一役を担ってもらい。地域の中で一緒に困っている障害者の方の支援をする。

③八王子市相談支援事業所連絡会は緩やかに相談できる会として、八王子市とより良い

関係を築ける会にしていく。そのために世話人は一年交代で行っていく。

私たちが困っている人のそばに寄っていき、どうしたらサービスにつなげられるのか、どうしたら本人に合わせて地域の生活、暮らしやすい仕組みを作れるのか、そういう意味でテーマを行政と協働して行う人材育成ということにした。